

Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.

# Meishu Hitachi Times

Written by  
2-5 Mizumoto

No.1 Since 2020

MONDAY, APRIL 6, 2020.

Kaminecho3-2-26 Hitachi City Ibaraki Japan

☎0294-21-6328

## 3月1日 卒業式挙行 式内容縮小 在校生は自宅待機

東京五輪延期、大相撲無観客試合、各イベント中止。世界中が混乱している。中国の武漢市より発症した新型コロナウイルス感染による肺炎が世界に広がり、今やアジアに留まらず、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカに感染を広げている。この歴史に残るパンデミック（広範囲に及ぶ流行病）は日本全国の卒業式に影響を与えた。

まできている。」と。未曾有の脅威により、世界中が混乱し、今現在も収束の見通しが立たず、不安に覆われていようと、巣立っていった卒業生たちには、耐え、常に前を向いて乗り越えて行って欲しい。2019年度の卒業生は348名で、明秀日立高校となってから22期目の卒業生である。



明秀日立高校では毎年3月1日に卒業式を実施している。しかし、今年は新型コロナウイルスの集団感染および感染拡大を防ぐために卒業式の実施自体が危ぶまれる中、異例の形態で挙行することを決めた。来賓の出席はなく、式時間も短縮した。在校生は出席せず、卒業生とその保護者、教職員のみ出席とした。また保護者も、各家庭一名のみの協力を要請した。

卒業式の前日。体育科教員の川村教諭を中心に会場設営が行われた。例年よりも座席数が少なく、各座席は広目の間隔を開けて配置された。

混乱、不安、名残惜しさ、喜びなど様々な思いが入り混じる中、塙教頭により会式が宣言された。例年行われる前日練習が未実施ではあったが、卒業生たちは呼名に対して堂々と返事をして、卒業証書を受け取った。多くの拍手と教職員、保護者に囲まれて会場を後にする卒業生たちの表情は、世界の混乱を忘れさせる、清々しい顔であった。

明秀日立高校が目指すは「白梅」のような人間の育成である。じっくりと蓄えたエネルギーを、厳しい寒さが残る中に花を開いて、豊かな香りを広げる。その香りは、世界に知らせる。「もう春はすぐそこ

## 寮生にくつろぎの入浴を！

### 明高館浴室清掃に 新人舎監奮闘

寮生全員が静まりかえった男子寮「明高館」の浴室で、舎監たちが食器洗い用のスポンジと浴室洗剤を手に壁や床をこすっていた。

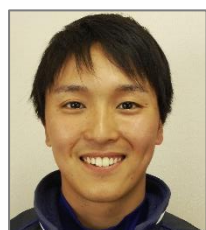
明秀日立高校の男子寮である「明高館」は2013年に茨城県高萩市の旧県立高萩工業高校の跡地に建てられた。現在は、硬式野球部、サッカー部、男子卓球部に所属する男子生徒175名がこの寮で暮らしている。7年間のここで過ごした多くの寮生たちの生活を支えてきた施設は劣化も見られてきた。特に浴室は1日に150人程が利用し、汚れが目立ってきている。

新型コロナウイルス感染を防止するために、寮生全員が帰省したタイミングを生かし、3人の舎監たちが清掃に取り掛かった。サッカー部のコーチでもある伊藤真輝、野球部のコーチでもある坂口拓也そして、今年度より舎監に着任した村瀬賢太である。

村瀬は2015年度の明秀日立高校卒業生であり、「明高館」完成時の1年生、つまり寮生第1号の世代である。4年ぶりに訪れた懐かしい寮を、かつての姿に戻そうと

半袖、ハーフパンツ姿で、清掃に取り組んだ。最初に取り掛かったのは床である。特に苦労したのは、シャンプーやボディソープを置くために、シャンプー台の足元に設置された棚の裏側と排水溝である。努力の証として体に着いた泥が、洗い流され、蓄積していた。続いて取り掛かった天井の清掃時は、度々洗剤の泡が頬や頭に降り注いだ。ワイパーで水滴を落とし、最後の仕上げに、煙状のカビ防止剤を散布して清掃を完了した。

舎監の立場で再び明高館に戻り、懐かしさと共に社会人として気持ちを新たに頑張りたい、と語った。



村瀬賢太コーチ

宮城県仙台市加茂中学校出身。2013年明秀日立高校に入学。硬式野球部に所属し、ポジションはセカンド。卒業後は東北福祉大学に進学し、暗黙知と形式知を研究する。好きな食べ物はオムライス。

## 学校活動再開！止まっていた学校生活に生徒の声戻る

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒の学校活動すべてが中止となった。3月はまさに「学校が止まった月」であり、静寂に包まれていた。第3週の25日、学校の施設が解放され、何人かの部活動生たちが自主練習を行うため、数週間ぶりに登校した。

グラウンドで自主練習をしていたソフトボール部の3年生、柴田めぐみさんと生井心音さんは次のように話した。

「部員たちとはいつも一緒にいたので、会えなくなったこの期間は違和感と不安を感じていました。家では宿題に取り組みながら、キャッチボールをして、練習再開に向けて体を慣らしていました。施設開放され、みんなに会えて安心した。」また、4月2日から寮生が帰寮した。香川県出身のサッカー部2年の谷口璃成さんにも活動中止期間の様子を聞いた。

「思いがけない帰省ではあったが、家族や地元の友人たちが自分のことを応援してくれていることを肌で感じる事ができた期間だった。実家は落ち着くが、やはり寮で友人と共に過ごす時間は楽しい。思いを新たに頑張ろうと思う。」やはり、学校の主役は生徒である。

## 特別連載「3日後に嫌われるかわ」2日目



## 学校生活を発信！出版委員集 人間観察・執筆・撮影・「遊び」

年度はじめの定番、係決めがこれから行われると思います。今年度の出版委員会は、月1回の本誌発行を目指します。執筆だけでなく、写真撮影やキャッチコピー、記事企画など皆さんの様々な能力を生かして、日々の学校生活を発信し、記録と記憶に残しましょう。是非、出版委員会の新たな出発に協力してください。